

2-3. セーフコミュニティ ニューレノックス

マディソンでの朝食会議を終えると、次の訪問地であるニューレノックス（イリノイ州）に向かった。車で約3時間、距離にして約250キロを高速道路で一気に移動した。

【概要】

ニューレノックス（New Lenox）は、イリノイ州ウィル郡に位置する人口約25000人（2010年時点）の村。シカゴの郊外に位置しており、政府の予測によれば、2030年には人口は9万人台まで増えるとされており、成長が著しいコミュニティである。

それに伴ってか、近年、村役場をはじめ図書館、屋外ステージなど公共施設が新しいエリアに次々と建設されている。警察署もまもなくそのエリアに新築されるという。

2010年6月にアメリカで9番目のSCに認証されている。

セーフコミュニティ活動は、マディソンと同様に、SC連合形式で展開されている。そのリーダーとなっているのは、警察である。現在の村長であるTim Baldermann氏および理事会が2008年に認証を視野に置いてSCに着手することを決意し、以降、活発な取り組みを展開している。主な活動は、「転倒予防」「自殺予防」「若者のスポーツ、健康・安全」「不要な医薬品の廃棄」などである。さらに、ニューレノックス・コミュニティ緊急対応チーム（New Lenox Community Emergency Response Team : CERT）を設置し、災害等緊急時のコミュニティレベルの対応能力の強化を図っている。

【視察内容】

今回、視察の対応をしてくださったのは、警察官のDan Martin（ダン・マーティン）氏（写真右）。（制服ではなく、セーフコミュニティアメリカのポロシャツを着用していたため、勤務外の時間を活用して対応くださっていると思ったが、銃を携帯し、公用車で案内してくださったことで、公務中であることが分かった。）

ダンさんはニューレノックスSCのキーパソンとのことで、地域の方たちはみな彼の日ごろの尽力に感謝の意を表していた。



[シルバークロス病院]

ウィル郡域およびその周辺に住む住民の健康を一手に担う非営利病院シルバークロス病院を視察（公立でも私立でもない、コミュニティホスピタルとのこと）。1895年に33床から始まった当病院は、現在では289床を有する地域の救急対応病院にまで成長している。さらに、国や州、大学の医療機関等と連携し、それらのオフィスを設置することで、多様かつ高度なサービスを提供している。人口の増大、地域の発展に伴い、2012年に新たな場所に移転した。新たな病院は、ハイテクが駆使されながらも、患者やその家族の立場にたった配慮が随所にみられる「患者にやさしい」病院であった。



病院の概観



病院のロビー。受付患者を待たせないため、待合室が必要ないとのこと



患者は、自分で受付を済ませることもできる。これによって、手続きはずいぶん簡素化されたという。



できるだけ「無機質」な印象をなくすため、カーペットを敷いた(ただし、車椅子なども使いやすい材質を厳選)。また、内装は、淡いグリーンと間接照明などでできるだけ自然を感じられるようにした。



救急搬送された患者は、全員個室で処置される。家族は、患者の治療を見守ることができる。部屋のレイアウトは患者の必要に合わせて自由に変えることが可能。患者が施設に合わせるのではなく、医者や看護師、設備が患者に合わせるというスタンス。

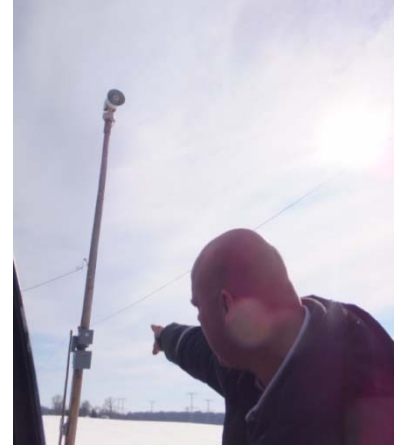


転倒のリスクがある患者は、部屋番号の上のカードを「黄色」や「赤」にすることでその情報を共有している。

[災害対策]

このエリアでは、毎年ハリケーンが発生し、その被害は膨大である。そのため、一刻も早くハリケーン発生を住民に知らせるとともに、事前対応を徹底する教育プログラムと防災訓練を展開している。

訪問した前日には、「セーフティエクスポ」を実施しており、その中で災害への事前対応(準備)を積極的に呼びかけたとのこと。特に、ハリケーンは局所的なダメージが多いが、その移動経路は予測できることから事前対応が可能である。そのため、村内の警報機を活用した防災訓練だけでなく、各家庭に災害ラジオの設置を奨励している。



[村役場訪問]

村役場に到着すると、ホールに多くの方が集まっていた。何かかと思っていたら、日本からの視察ということで、平日の日中にもかかわらず、SC関係者が挨拶および交流のために集まってくださっていた。警察、消防、商工会議所、ボランティアなど、多様な方が集まっており、それぞれに活動を簡単に紹介してくださった。(正式にはご紹介いただけなかったが、おそらくSC連合あるいはパートナーの皆さんだと思われる。)

また、村長から記念品(いつでも村に帰ってきてください、という意味を込めて「鍵」)をいただき、地元メディアのインタビューも受けるなど、大変歓迎していただいた。



村役場外観①



村役場外観②



議場。ここで認証式が行われた



村長が記念品をくださいました



記念品の「鍵」



SC関係者との交流



商工会議者オフィス

SC活動の主メンバーである商工会議所は、村役場内にオフィスが設置されており、いろいろな団体の情報提供とネットワークづくりに役割を果たしているという。

今回、ニューレノックスに関しては、日程及び時間の関係から駆け足での訪問であった。しかし、次の機会には、ぜひ一つ一つの取組についてじっくりとお話をお伺いしたい。

最後に

今回、アメリカのSC支援センター（NSC）のドナさんとスジャさんは、JISCの限られた時間のなかで、2つもコミュニティの視察を調整くださった。お忙しい業務の間を縫って、終始同行くださったおかげで、それぞれのコミュニティの取組を紹介いただくだけでなく、その背景にあるアメリカ特有あるいは地域特有の課題、社会資源、文化や慣習なども併せて学ぶことができた。

また、支援センターとしての支援の在り方などについても議論できたことで、支援の方向性は共通していることが確認できた。当然ではあるが、「SCはだれのためでもなく、まずそこに住む住民にとってメリットがなくてはいけない」ことや「認証はゴールではなく、その仕組みを活用していかに地域の実情にあった取組を推進するか」が大切であることなどを議論していくなかで、日本では、行政がイニシアチブをとってSCを進めているが、持続可能な取組を展開するためには、いかに「コミュニティ」として自律していくかが重要であると感じた。

また、今回訪問したいずれのコミュニティでも、出会った方たちはやりがいをもってSCに関わっておられることが言葉や態度の端々に見受けられた。やりがいを感じられると、取組みもより楽しくなり、周知・参画も進むだろう。この雰囲気は、ぜひ日本のSCのみなさんにも直に感じていただきたい。

ドナさんとは、資金的な壁はあるが、国を超えてコミュニティ同士が交流できれば、それこそが一番学びの機会となるだろうという点で意見が一致した。今後、その可能性について検討していきたい。



SCAのドナさん(左)とスジャさん(右)

ⁱ Safe Communities America: http://www.nsc.org/safety_work/SafeCommunitiesAmerica/Pages/SafeCommunitiesAmericaHome.aspx

ⁱⁱ National Safety Council (USA): <http://www.nsc.org/pages/home.aspx>

ⁱⁱⁱ Safe Communities of Madison-Dane County: <http://www.safercommunity.net/>